

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 13 年 7 月 調査結果 —

(平成 13 年 8 月 1 日)

○調査期間：平成 13 年 7 月 18 日～25 日

○調査対象：全国の 396 商工会議所が 2622 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 387 製造業 635 卸売業 237
小売業 753 サービス業 610

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL:03-3283-7844/7836

E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成13年7月調査結果のポイント】

業況の悪化傾向変わらず。特に、製造業は9ヵ月連続でマイナス幅拡大

- 7月の景況をみると、全産業合計の業況D1（前年同月比ベース、以下同じ）は、小売業、建設業およびサービス業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、前月水準（▲53.0）よりマイナス幅が1.0ポイント縮小して▲52.0となった。昨年10月以降、マイナス幅拡大傾向が続き、特に前月は4.7ポイントもの大幅な拡大がみられたが、今月は、小売業において、一部の大型店を中心に猛暑効果により季節商品が好調だったことから、縮小となった。しかし、製造業では、IT関連等の受注減から9ヵ月連続のマイナス幅拡大となるなど、全体として業況の悪化傾向は変わらず、不透明感が広がっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。

建設業では、前月までのD1値マイナス幅拡大の反動から、今月はマイナス幅が縮小したものの、引き続き「公共工事予算が削減されているうえに、例年に比べて発注が遅れている。また、競争激化の中で落札価格が低下している」（一般工事）、「地域工務店の強みであるリフォーム部門にも大手ハウスメーカー等が参入しており、今後が心配」（建築工事）など厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。また、今後の政策運営に関し、「小泉内閣の経済構造改革で最初に痛みを伴うのは土木建築業であると思われることから、強い不安を感じている」（土木工事）などの声も寄せられている。

製造業では、昨年11月以降業況の悪化傾向が続いており、「半導体関連の受注が大幅減少」（電子部品製造）、「IT関連の受注が軒並み減少」（電気機械器具製造）、「全般的に減速傾向。夏場に向かってさらに厳しくなるだろう」（自動車・同附属品製造）、「米国景気の影響で受注が減少傾向」（一般産業用機械製造）などの厳しい声が多く寄せられている。また、「親会社の外注品、海外調達強化により、仕事量減に拍車がかかっている」（金属加工機械製造）、「さらに大きなコストダウン要請により業績悪化の不安が増大」（自動車・同附属品製造）などの指摘も寄せられている。

卸売業では、「天候にも恵まれ夏物衣料は数量的には増えているが、単価が低く利益率も低下」（衣服・日用品卸）、「大型店による超安値商品の販売に対抗しきれなくなった」（肥料卸）、「空梅雨ぎみで気温が高く、菓子の購買意欲がそがれている」（食料・飲料卸）など、厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。また、「参院選後の構造改革実施にともない、業況の好転・維持を期待できる要因がない」（建築材料卸）といった指摘も寄せられている。

小売業では、引き続き、販売価格や客単価の低下、近隣大型店の影響による売上減などの声がある一方で、一部の大型店を中心に、猛暑の影響からエアコン、夏物衣料、日傘などの婦人雑貨、氷菓子・飲料などが好調との声が寄せられた。

サービス業では、「来客数が減少。夏休みの予約状況も芳しくない」（旅館）、「客室販売価格が低下し、宿泊客数が増加しても売上増にならない」（旅館）、「景気後退から輸送需要も減少。排ガス規制等によるコスト増加分を運賃に転嫁できない」（運輸サービス）など、厳しい業況を訴える声が寄せられる一方、「行政関係の仕事が急増」（ソフトウェア）、「暑さの影響で、麺類の売上が向上」（そば・うどん店）、「好天のため観光客が多く好調」（一般飲食店）などの声も寄せられた。

売上面では、前月水準から8.1ポイント縮小した小売業をはじめ、サービス業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、全産業合計の売上D1はマイナス幅が1.5ポイント縮小して▲44.1となった。採算面でも、小売業、建設業およびサービス業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、全産業合計の採算D1はマイナス幅が0.8ポイント縮小して▲46.0となった。

- 向こう3ヵ月（8月～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D1

(今月比ベース)が▲46.9と、昨年同時期の先行き見通し(▲27.0)に比べて極めて厳しい見方となっており、先行きへの不安が強まっている。

- 景気に関する声、当面する問題としては、公共工事の見直しや不良債権処理の本格化を含めた政府の構造改革の具体化策、個人消費についての関心が高い。

【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、小売業、建設業およびサービス業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、前月水準(▲53.0)よりマイナス幅が1.0ポイント縮小して▲52.0となった。昨年10月以降、マイナス幅拡大傾向が続き、特に前月は4.7ポイントもの大幅な拡大がみられたが、今月は縮小に転じた。しかし、全体として業況の悪化傾向は変わらず、不透明感が広がっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。

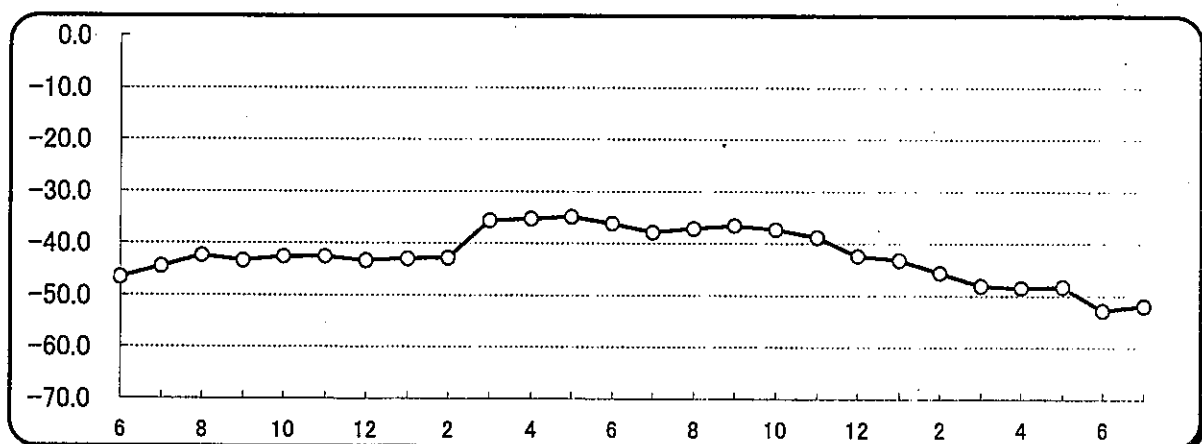
○ 向こう3ヵ月(8月~10月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲46.9と、昨年同時期の先行き見通し(▲27.0)に比べて極めて厳しい見方となっており、先行きへの不安が強まっている。

業況DI(前年同月比)の推移

	13年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	▲45.8	▲48.1	▲48.6	▲48.3	▲53.0	▲52.0	▲46.9 (▲27.0)
建設	▲56.7	▲60.0	▲57.7	▲59.3	▲62.2	▲60.6	▲55.3 (▲35.6)
製造	▲38.0	▲44.2	▲46.7	▲46.8	▲55.9	▲59.4	▲53.5 (▲20.2)
卸売	▲48.8	▲52.8	▲54.8	▲51.3	▲53.9	▲57.1	▲46.0 (▲27.9)
小売	▲50.3	▲50.1	▲50.7	▲47.6	▲49.9	▲44.2	▲39.4 (▲33.6)
サービス	▲40.2	▲39.6	▲38.7	▲41.9	▲46.3	▲45.2	▲43.1 (▲19.9)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しDI
()内は昨年7月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



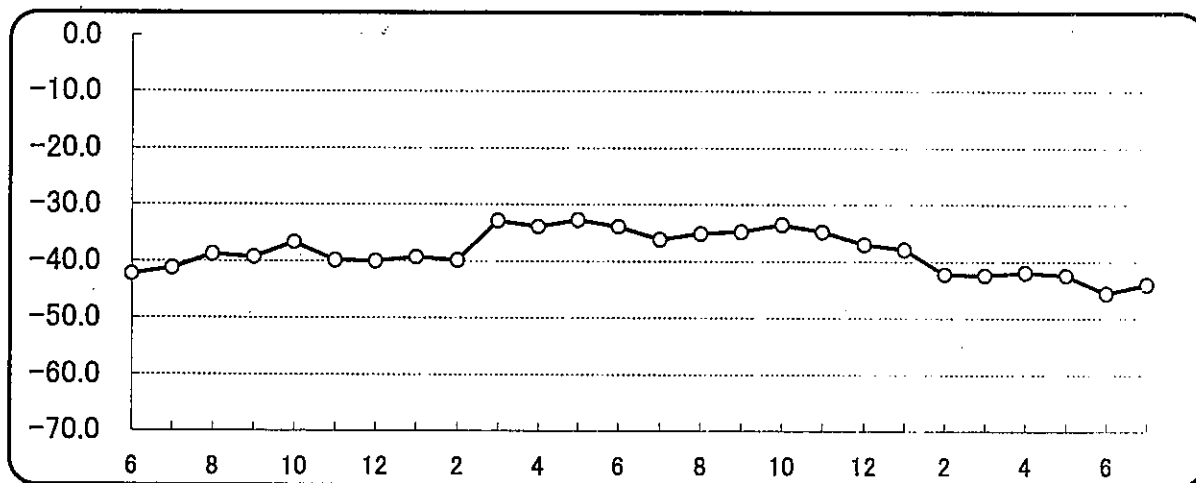
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、前月水準から8.1ポイント縮小した小売業をはじめ、サービス業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、全産業合計の売上DIはマイナス幅が1.5ポイント縮小して▲44.1となった。
- 向こう3ヵ月（8月～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲37.9と、昨年同時期の先行き見通し（▲23.3）に比べて極めて厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲42.3	▲42.5	▲41.9	▲42.5	▲45.6	▲44.1	▲37.9 (▲23.3)
建設	▲52.5	▲53.5	▲51.6	▲53.1	▲56.1	▲54.6	▲43.3 (▲29.8)
製造	▲28.9	▲33.4	▲39.2	▲38.9	▲46.7	▲49.7	▲41.9 (▲16.6)
卸売	▲43.8	▲44.2	▲44.5	▲46.2	▲47.9	▲56.5	▲38.5 (▲26.7)
小売	▲51.0	▲48.5	▲45.6	▲44.5	▲42.6	▲34.5	▲33.5 (▲29.9)
サービス	▲38.7	▲36.6	▲31.6	▲35.3	▲39.4	▲37.4	▲34.8 (▲16.6)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



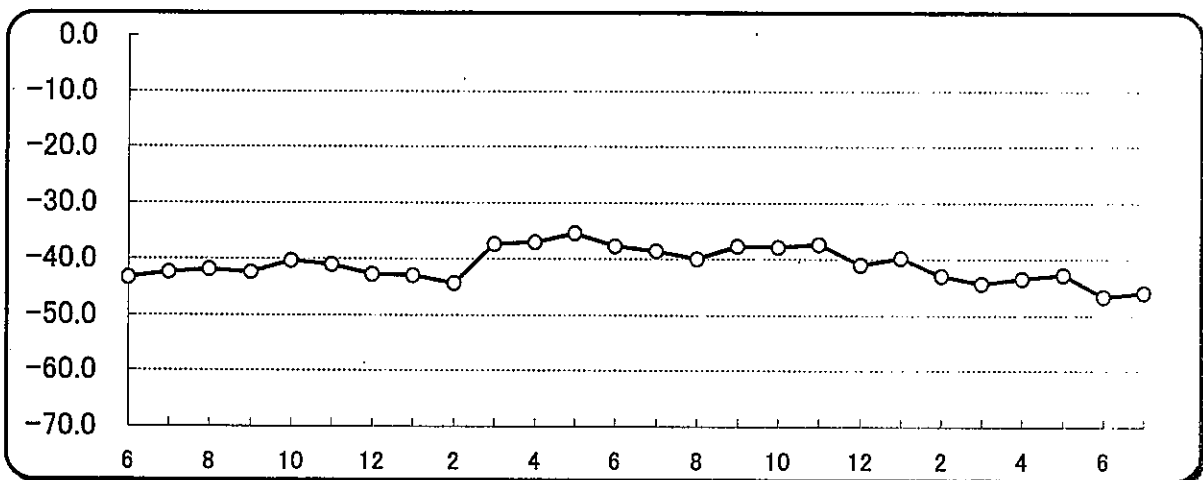
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、小売業、建設業およびサービス業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、全産業合計の採算D Iはマイナス幅が0.8ポイント縮小して▲46.0となった。
- 向こう3ヵ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲40.3と、昨年同時期の先行き見通し(▲28.0)に比べて非常に厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲43.1	▲44.5	▲43.6	▲42.8	▲46.8	▲46.0	▲40.3 (▲28.0)
建設	▲57.8	▲59.4	▲58.4	▲58.5	▲61.1	▲58.9	▲52.0 (▲38.7)
製造	▲38.8	▲42.5	▲43.7	▲43.8	▲50.5	▲55.0	▲45.0 (▲24.6)
卸売	▲38.9	▲46.6	▲46.5	▲38.5	▲49.1	▲52.2	▲40.4 (▲25.5)
小売	▲46.3	▲44.2	▲42.9	▲41.1	▲39.1	▲34.1	▲32.7 (▲31.2)
サービス	▲35.5	▲35.5	▲32.4	▲34.5	▲41.2	▲39.5	▲36.4 (▲21.3)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

	13年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	▲ 27.9	▲ 30.3	▲ 29.0	▲ 30.1	▲ 32.4	▲ 32.6	▲ 29.9 (▲ 20.9)
建設	▲ 34.4	▲ 35.9	▲ 37.0	▲ 39.2	▲ 43.2	▲ 40.9	▲ 37.1 (▲ 23.4)
製造	▲ 26.9	▲ 30.7	▲ 28.8	▲ 29.0	▲ 36.6	▲ 37.5	▲ 36.2 (▲ 19.2)
卸売	▲ 23.7	▲ 25.4	▲ 24.4	▲ 29.5	▲ 27.8	▲ 28.5	▲ 23.2 (▲ 21.1)
小売	▲ 28.8	▲ 29.0	▲ 29.5	▲ 26.0	▲ 26.8	▲ 27.3	▲ 24.8 (▲ 21.1)
サービス	▲ 24.7	▲ 29.5	▲ 24.0	▲ 29.2	▲ 26.6	▲ 27.8	▲ 26.4 (▲ 20.8)

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比DI】建設業を除く全業種で悪化超感が強まる。

【先行き見通しDI】全業種で、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

	13年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	▲ 1.7	0.3	4.6	3.4	1.5	2.0	▲ 0.6 (▲ 1.8)
建設	▲ 4.6	0.0	2.5	6.1	6.5	3.3	▲ 1.5 (1.8)
製造	▲ 4.4	▲ 7.8	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 4.3	▲ 4.0	▲ 3.8 (▲ 8.9)
卸売	1.2	4.3	9.7	5.8	▲ 2.4	6.8	4.3 (1.2)
小売	6.4	8.5	13.6	9.2	7.7	9.7	4.6 (3.7)
サービス	▲ 7.8	▲ 2.3	1.3	1.0	▲ 2.1	▲ 3.9	▲ 5.0 (▲ 4.5)

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比DI】製造業、卸売業および小売業で下落超感が強まる。

【先行き見通しDI】製造業、卸売業および小売業で、昨年同時期に比べ下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲ 11.1	▲ 12.1	▲ 11.5	▲ 12.8	▲ 15.7	▲ 15.6	▲ 14.6 (▲ 12.0)
建設	▲ 22.4	▲ 22.5	▲ 28.0	▲ 28.9	▲ 31.1	▲ 33.6	▲ 26.9 (▲ 20.8)
製造	▲ 11.2	▲ 16.1	▲ 11.9	▲ 14.9	▲ 21.8	▲ 22.8	▲ 21.1 (▲ 14.2)
卸売	▲ 19.1	▲ 13.6	▲ 14.8	▲ 12.2	▲ 19.4	▲ 19.3	▲ 15.5 (▲ 10.7)
小売	▲ 6.0	▲ 6.5	▲ 5.9	▲ 7.5	▲ 8.3	▲ 5.2	▲ 7.7 (▲ 10.8)
サービス	▲ 6.2	▲ 6.7	▲ 5.1	▲ 6.1	▲ 5.4	▲ 6.3	▲ 6.8 (▲ 5.1)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業および小売業で過剰超感が弱まる。

【先行き見通しD I】小売業を除く全業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年7月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

「車の買い替え需要が相変わらず好調」（釧路・自動車小売）、「行政関係の仕事が急増」（札幌・ソフトウェア）、「企業のリストラ等による人材不足を補うため受注増加」（名古屋・人材派遣）といった声がある一方で、先行きの業況に関する不透明感の指摘が多く寄せられている。建設業からは、「小泉内閣の経済構造改革で最初に痛みを伴うのは土木建築業であると思われることから、強い不安を感じている」（各務原・土木工事）、「公共工事の先行きに期待が持てず、不安が広がっている」（釧路・一般工事）などの声が寄せられている。製造業からは、「半導体関連の受注が大幅減少」（塩尻・電子部品製造）、「IT関連の受注が軒並み減少」（北上・電気機械器具製造）、「全般的に減速傾向。夏場に向かってさらに厳しくなるだろう」（加賀・自動車・同附属品製造）、「米国景気の影響で受注が減少傾向」（松山・一般産業用機械製造）、「親会社の外注品、海外調達強化により、仕事量減に拍車がかかっている」（松任・金属加工機械製造）といった声がある。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「参院選後の構造改革実施にともない、業況の好転・維持を期待できる要因がない」（札幌・建築材料卸）、「来客数が減少。夏休みの予約状況も芳しくない」（赤穂・旅館）などの声が寄せられている。

○ 倒産・廃業

長引く低迷や先行き見通しが厳しい影響から、倒産や廃業についてのコメントが目立ってきている。「民間投資は冷え込んできている。専門業者の中から廃業が目立ちだした」（岩見沢・木造建築工事）、「従業員30人規模の縫製業が自主廃業。原因は加工賃単価の下落と小ロット受注に対応できなかったため」（湯沢・織物外衣製造）、「楽器は特に国内消費低迷で大苦戦。中小企業は廃業を検討している会社も多い」（浜松・楽器製造）、「金物卸などの倒産が増加。ホームセンターへの売価下落が一段と厳しくなっている」（岐阜・プラスチック製品製造）、「倒産が多すぎるため、取引に際し、二の足を踏むケースとなることが多い」（小野・金物卸）、「メインストリートでの廃店続出」（日立・商店街）、「商店街の中核であった大型店の倒産・撤退の影響で客足が減少し、経営が大変厳しくなっている」（和歌山・商店街）といった指摘が寄せられている。

○ 猛暑の影響

今月は、例年に比べて、全国的に高温・少雨となったことから、特に小売業において、大型店を中心に、各地から、エアコン、夏物衣料、日傘などの婦人雑貨、氷菓子・飲料などが好調との声が寄せられたほか、サービス業からも、一部の飲食店や旅館から、好天により入り込み客が増加との声が寄せられた。その一方で、「空梅雨ぎみで気温が高く、菓子の購買意欲がそがれている」（藤枝・食料・飲料卸）、「今年の梅雨は雨が降らず、これからの秋野菜に影響が出るのではないかと懸念」（石岡・農畜産水産物卸）、「暑さ続きで客数減少」（茅ヶ崎、大津・商店街）といった指摘も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年 5月	先行き不透明感	単価下落	
13年 6月	先行き不透明感	単価下落	倒産・廃業
13年 7月	先行き不透明感	倒産・廃業	猛暑の影響

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D1とも、前月までの2ヵ月連続でのマイナス幅拡大から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。引き続き「公共工事予算が削減されているうえに、例年に比べて発注が遅れている。また、競争激化の中で落札価格が低下している」(一般工事)、「地域工務店の強みであるリフォーム部門にも大手ハウスメーカー等が参入しており、今後が心配」(建築工事)など厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。また、今後の政策運営に関し、「小泉内閣の経済構造改革で最初に痛みを伴うのは土木建築業であると思われることから、強い不安を感じている」(土木工事)などの声も寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D1とも、前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。特に、業況・採算D1については、9ヵ月連続の拡大となっている。「半導体関連の受注が大幅減少」(電子部品製造)、「IT関連の受注が軒並み減少」(電気機械器具製造)、「全般的に減速傾向。夏場に向かってさらに厳しくなるだろう」(自動車・同附属品製造)、「米国景気の影響で受注が減少傾向」(一般産業用機械製造)などの厳しい声が多く寄せられている。また、「親会社の外注品、海外調達強化により、仕事量減に拍車がかかっている」(金属加工機械製造)、「さらに大きなコストダウン要請により業績悪化の不安が増大」(自動車・同附属品製造)などの指摘も寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が拡大しており、特に、売上D1は7ヵ月連続の拡大となっている。「天候にも恵まれ夏物衣料は数量的には増えているが、単価が低く利益率も低下」(衣服・日用品卸)、「大型店による超安値商品の販売に対抗しきれなくなった」(肥料卸)、「空梅雨ぎみで気温が高く、菓子の購買意欲がそがれている」(食料・飲料卸)など、厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。また、「参院選後の構造改革実施にともない、業況の好転・維持を期待できる要因がない」(建築材料卸)といった指摘も寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が縮小しており、特に、売上・採算D1は5ヵ月連続の縮小となっている。引き続き、販売価格や客単価の低下、近隣大型店の影響による売上減などの声がある一方で、一部の大型店を中心に、猛暑の影響からエアコン、夏物衣料、日傘などの婦人雑貨、氷菓子・飲料などが好調との声が寄せられた。
サービス	業況・売上・採算D1とも、前月までの2ヵ月連続でのマイナス幅拡大から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「来客数が減少。夏休みの予約状況も芳しくない」(旅館)、「客室販売価格が低下し、宿泊客数が増加しても売上増にならない」(旅館)、「景気後退から輸送需要も減少。排ガス規制等によるコスト増加分を運賃に転嫁できない」(運輸サービス)など、厳しい業況を訴える声が寄せられる一方、「行政関係の仕事が急増」(ソフトウェア)、「暑さの影響で、麺類の売上が向上」(そば・うどん店)、「好天のため観光客が多く好調」(一般飲食店)などの声も寄せられた。

(参考)

【ブロック別概況】

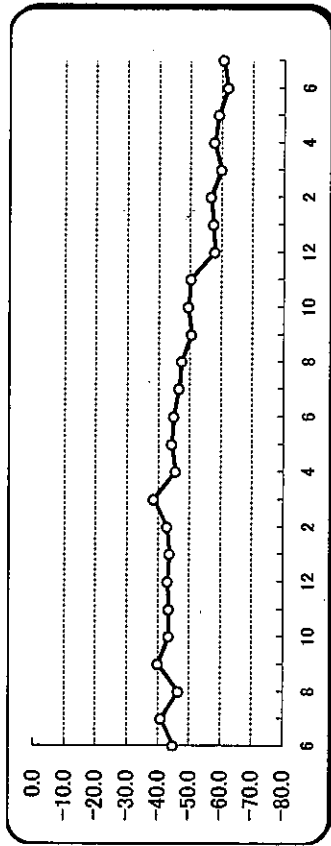
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別に見ると、北海道、北陸信越および四国を除く各ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。
- ブロック別の向こう3ヵ月（8月～10月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックにおいて、昨年同時期の先行き見通しに比べて非常に厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

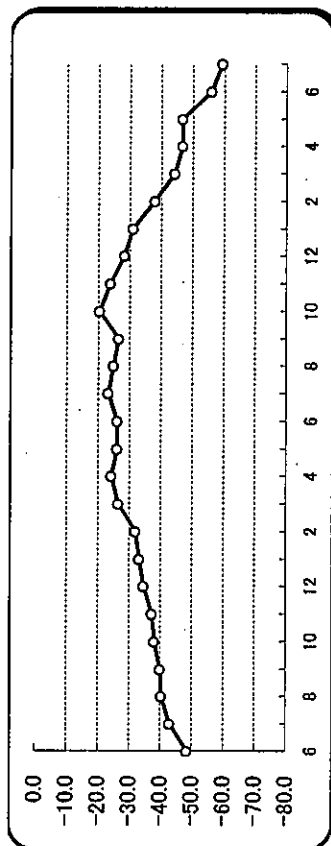
	13年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全 国	▲ 45.8	▲ 48.1	▲ 48.6	▲ 48.3	▲ 53.0	▲ 52.0	▲ 46.9 (▲ 27.0)
北 海 道	▲ 40.7	▲ 40.3	▲ 44.5	▲ 43.5	▲ 39.8	▲ 44.4	▲ 40.5 (▲ 26.4)
東 北	▲ 54.8	▲ 53.3	▲ 50.9	▲ 50.0	▲ 54.0	▲ 53.7	▲ 49.7 (▲ 26.4)
北陸信越	▲ 36.4	▲ 45.7	▲ 48.8	▲ 43.5	▲ 52.5	▲ 58.0	▲ 49.4 (▲ 21.3)
関 東	▲ 41.6	▲ 46.9	▲ 41.1	▲ 39.5	▲ 50.9	▲ 48.4	▲ 43.5 (▲ 24.5)
東 海	▲ 45.4	▲ 46.7	▲ 53.3	▲ 49.1	▲ 57.6	▲ 46.3	▲ 46.0 (▲ 30.1)
近 畿	▲ 53.2	▲ 51.5	▲ 56.2	▲ 60.3	▲ 58.4	▲ 56.8	▲ 51.5 (▲ 34.3)
中 国	▲ 45.3	▲ 50.6	▲ 49.7	▲ 54.2	▲ 58.8	▲ 54.6	▲ 46.7 (▲ 30.9)
四 国	▲ 58.6	▲ 51.4	▲ 60.9	▲ 57.4	▲ 54.9	▲ 63.7	▲ 53.9 (▲ 26.4)
九 州	▲ 41.2	▲ 45.8	▲ 44.6	▲ 47.2	▲ 48.7	▲ 48.2	▲ 44.5 (▲ 23.2)

業況D I (前年同月比)の推移 (全国)

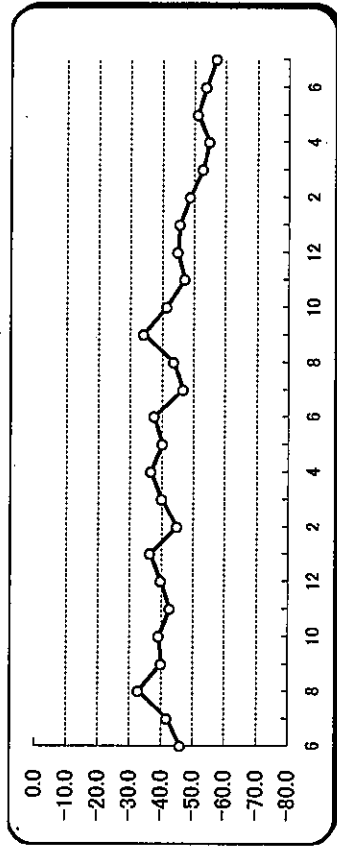
建設業



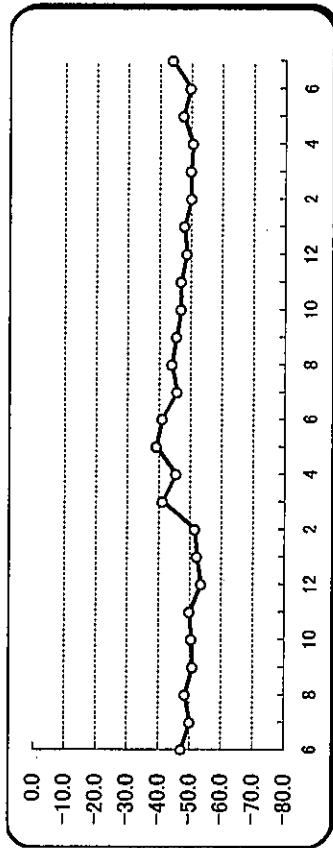
製造業



卸売業



小売業



サービス業

